

虚空蔵山系

(虚空蔵山 1496・一以峰 1471)

152

JR福知山線藍本駅の西側に、福知山線に並行して南北に走るのが虚空蔵山系で、その主峰が虚空蔵山(五九六)である。駅からすぐ登れる山として脚光を浴びているが、足の早い人なら一時間で往復できる距離なので、あまりにも短く、あっけなく登山が終わってしまうため、向こう側の立杭の里へ下ったりして時間を延ばしたりしていた。それでも、なにかたよりのない感じであったが、近年山頂から北に延びる縦走コースが開発され、藍本駅の一つ北の草野駅へ下れるようになった。

私はさらに北側の古市駅まで延ばせないものかと探ってみたところ、途中でひどいヤブに阻

まれ、北上を断念し、引き返して草野駅へのコースをとった。この草野へのコースができて、ようやく縦走と認定できる、一時間を越えるコースになったので、ここに紹介してみた次第。展望と美しい樹林の中を辿るコースは、距離の短さを十分補って余りある。

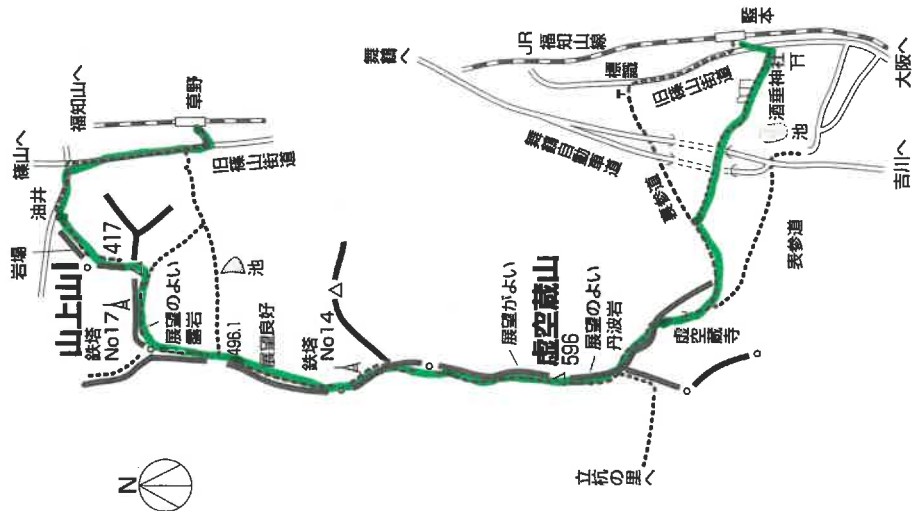
コース

藍本駅から虚空蔵山々麓の虚空蔵寺へは三つのコースがある。一つは旧篠山街道を南下し、途中で広い参道を進む表参道。次に旧街道を北にとり、登山口の標識の立つ所を西にとる裏参

道。三つ目は酒垂れ神社北側の露路からとりつき、神社裏の見晴らしのよい露岩を登って屋根通しに進み、途中で裏参道に合流するバリエーションコース。バリエーションコースはもともと

の三分二の時間で着く。

虚空蔵寺の縁起は、聖徳太子によって創建されたとあるが、戦国期の争乱で焼失し、江戸期に再建された後衰微し、現在は本堂のみ残ったとある。



虚空蔵山系 1997.2.2



丹波岩から三田盆地

虚空蔵山へは本堂の東側から登り出し、途中役ノ行者坐像石仏を見て、ほどなく尾根に達し、左に立杭への道を分け、山頂へは右の道をさらに登り続けると、展望のよい丹波岩に到着する。

鬘岳との間にトンガリ山が加わる。ところがよく見ると、トンガリ山の西側にもう一つトンガリ山がある。このトンガリ山は多分高山の北のピークと思われるが、トンガリ山が二つ見られるとは、なんとも珍しい。

草野駅へは東側を下っていきばよいが、ここはもう一つのピーク、四一七峰北の山上山^{かみかみ}まで歩いてみよう。北に続く道を下っていくと、小さいピークに達し、ここで尾根は左右に分かれる。山上山へはまっすぐ進み、やがて東へカーブしていくのだが、そこに露岩があって、展望もまた素晴らしい。とくに今来た尾根のピークなどが間近に眺められてじつに壮観。

コルでNo.17の鉄塔があり、少し登れば四一七峰だ。山上山へは直角に左(北)へ折れる。道は少し荒れているようだが、しっかりとついていてほどなく山上山の山頂。といってもど

山頂はすぐ上の所だが、ここからの方が展望広大だ。西側は四斗谷に沿った立杭の集落が真下に見下ろされ、その向こうに西光寺山や三草山それに妙見山や高山方面の山々が顔をそろえる。東側には千丈寺山から大野山、弥十郎ヶ岳といった北嶺の山々、それに更多紀アルプスの連山、南側は広野から三田方面、それに続く羽東山や六甲山系まで。

さて山頂だが、ここは西側だけが開け、白髪岳と松尾山がようやく眺められる。縦走に移ると、岩まじりのやせ尾根がしばらく続き、その先で北側の展望が大きく開ける。それからピークを一つ越えて左に折れ、コルでNo.14の送電線鉄塔を経て、再び二つのピークを大きくアップダウンすると、三等三角点のある四九六・一峰に到着する。

この峰も展望がよく、西側では西光寺山と白

クの形をしているようでもない。この山上山というのは大峰の山上ヶ岳の地方ミニ版で、修験の山である。この頂から北へ下山の途中に小さい岩場があって、役ノ行者と不動明王の石仏があり、岩場には鎖が垂れている。そして樹林の中を長々と下っていきば油井の集落に出る。JR草野駅は南に一キロのところ。

- コースタイム ● JR 草野駅 (40分) 虚空蔵寺 (45分) 虚空蔵山 (50分) 四九六・一峰 (45分) 山上山 (15分) 油井 (20分)
JR 草野駅
● 地形図 ● 二万五千分の1 藍本、篠山